

瀬川小学校だより

第6号 H27. 7. 1発行 文責：校長 星 善樹

「瀬川なかよし運動会」が終わって、最初の全校朝会の校長の話の際に、運動会の写真を子どもたちに見せながら、多くの地域の方々やお家の方々にお世話になった事を話しました。そして、それに対して、感謝の気持ちを持つことが大切だということを話しました。その感謝の気持ちを表すために、お会いした方々に元気にあいさつしましょうと話しました。このような事を話したあと、「あいさつは、感謝の言葉」という題の文に出会いました。

あいさつ(挨拶)は、感謝の言葉

「おはよう」「こんにちは」「さようなら」と、私たちは日々、多くの人とあいさつを交わします。明るく元気な挨拶は、当人だけでなく、はたから見ても気持ちのよいものです。反対に、元気に挨拶しても相手の返事がないと、嫌な気分になるでしょう。

挨拶の語源は「一挨拶(いちあい いちさつ)」であると言われます。「挨拶」には押し開く、互いに近づくという意味があり、「挨拶」には迫る、すり寄るといった意味があります。つまり人と人が出会い、お互いに心を開いて相手に迫っていくことが「挨拶」です。挨拶の短い言葉の中には、「お元気ですか」「お世話になります」「ありがとう」など、感謝や思いやりの気持ちも込められています。挨拶は良好な人間関係を築く上での最初の一步であり、コミュニケーションの入り口です。そして、自分自身の謙虚な人柄をつくっていくきっかけにもなるでしょう。

ニューモラル 心を育てる言葉366日 より

以前、勤務していた学校のPTA会長さんが、「新しく入社してきた若者には、挨拶から指導しなければならない。」と話されていたことを思い出します。社会に出れば、挨拶をしないで仕事はできない事は当然であり、いずれ必要なことならば子どもの頃からしっかり身に付けておいた方が絶対よいと思います。現在、子ども達の中には、毎日、帰りに職員室や校長室に寄って「さようなら」の挨拶をしてくれる子ども達があります。これが瀬川のよい伝統となってくれたらと思っています。私も、挨拶をしないと一方的に指導するだけでなく、まず、子どもたちと出会ったら、元気に挨拶をするよう心がけています。(廊下で何度も出会って、何度も「こんにちは！」の挨拶を交わす子もいます。)ある通学班の子どもたちは、毎朝、登校時に会う地域の方々がいらっしゃいます。少しずつ挨拶を通して心を通わせるようになってきました。瀬川小を子ども達の挨拶の音が響く学校にしていきたいと思っています。



3人揃って毎日挨拶をするため職員室を訪れる

1年生。後は、順番待ちの2年生・・・